

# 大会2日目の皆さんの様子より



2019年7月19日(金)~21日(日) 会場：仙台国際センター

## エクスカーション

エクスカーションが、以下の4コースで行われました。

- ① 海岸線コース(仙台市内~荒浜~岩沼~閉上) 129名参加

メインは荒浜小学校である。荒浜小学校の概要は、~荒浜小学校の教室には、過去に海沿いに広がる街の模型が展示されていて、現在の教室の窓から見えるその景色との差に驚かされる。



◆今後の大会予定  
 ・次回国際大会は2020年8月13~16日、デンマーク・オーデンセ  
 ・次回アジア太平洋地域大会は2021年8月台湾高雄

◆編集後記  
 ・今回、福島コースを追加することはHCC内でも議論があり、組み入れたとしても、参加希望者は集まらないのではないかという意見も多かったが、結果、コース①や②と同様の122名もの参加者が与えられ、多くの新たな知見を得られた方が多くあり感謝であった。  
 ・また、荒浜小学校の模型と現実の違いなどから、今後前へ進むためには、我々は本当に何を学び、何をすべきなのか。今回の大会を基に、個々で考えを進め、今後のActionに繋げて頂ければと切に願っております。



② 津波の現実と復興を知るコース（南三陸～大川小学校～石巻）124名参加



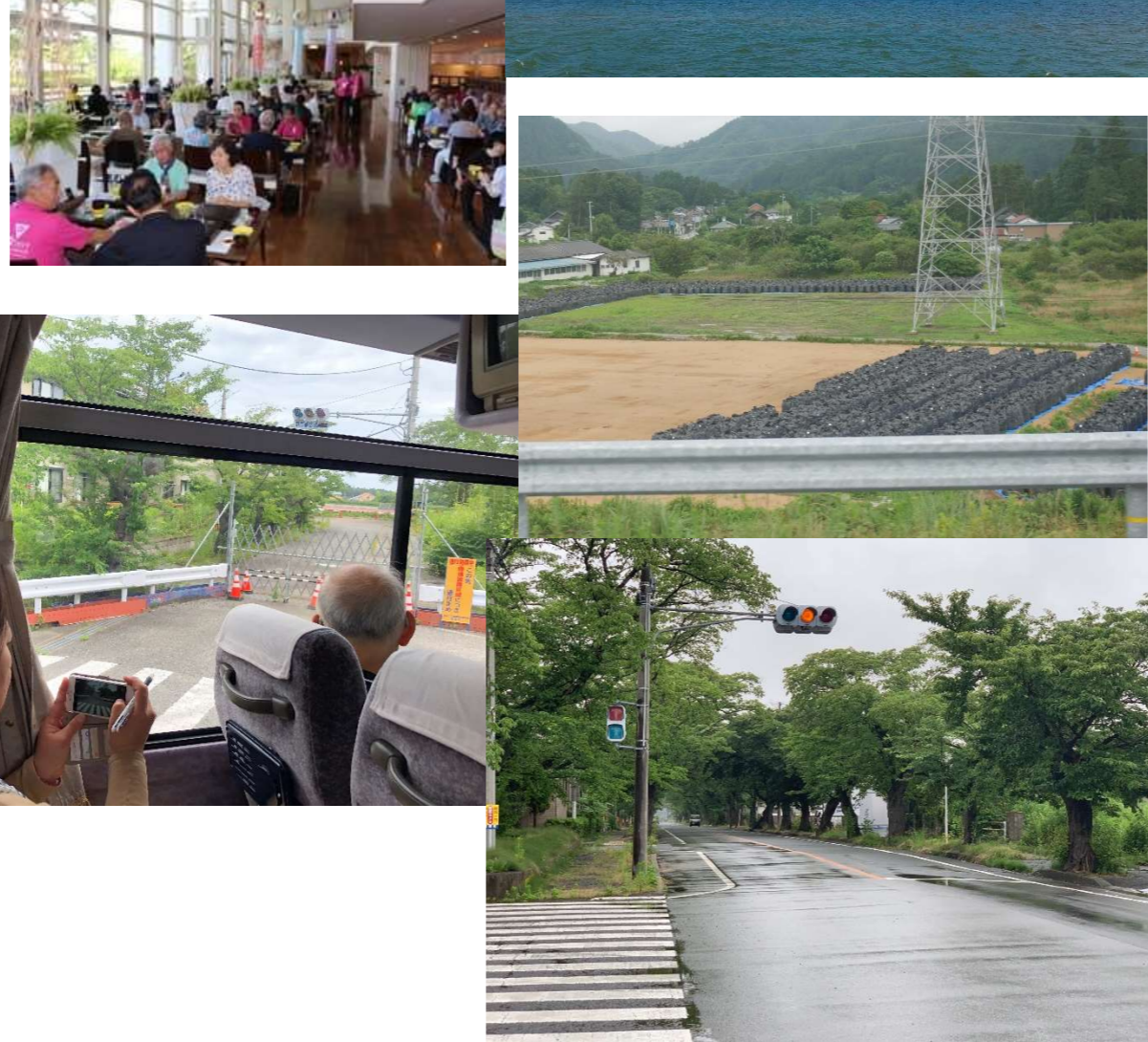
③ 震災に耐えた松島を巡るコース（東松島～語り部クルーズ～松島）308名参加

- 遊覧船の船内での語り部の方は、あの津波によって家は流し、家族の方は亡くなり、人生が大きく変わった。あの日の思い出や2万人が亡くなった地域の中でどうそのことを感じているかを話されました。
- そして、ワイズメンに「一日一日大切に生きていって欲しい。」と語りかけられたのが印象的でした。
- 帰りのバスの中で、「震災に襲われた熊本のワイズメンから、当時、周りの支援が本当にありがたかった。そのことを噛みしめている今だからこそ、復興に向かって元気を取り戻しつつある東日本大震災の被災地を訪ねられて良かった。」という言葉に元気をもらいました。



④ 福島を知るコース（福島第一原発 20km 圏内）122名参加（参加者のコメントより）

- <ガイドさんの熱心さ>
- 地域住民の立場から、福島の現状をくわしく丁寧に説明してもらった。参加者は、観光として来ていたら分からない、貴重な体験ができた大満足だった。
- <コースの印象>
- 震災後福島県を訪れたのははじめてでした。話には聞いていた光景ですが、改めて生活の場がこのような災害に見舞われ、片付けることもできず家にも帰れない状況を想像すると、胸が締め付けられる思いに襲われました。
  - 至る所にある汚染土がはいったフレコンバッグの山、以前は水田であった荒れた草原。帰宅困難地域では道路が封鎖され、家々の入り口にも柵が。あたたかな日常を奪い去られた上に、非常に冷たく無機質なものがおおいかぶさっているような印象を受けました。



AP ナイト  
(アジア太平洋地域会長主催晩餐会)

オーストラリアは、自国の歌をバックに旗を振りながらのパフォーマンス。台湾は、ピアノの伴奏に全員での合唱。なかなかの美声でした。南東アジア区は、タイのおどりを披露し、輪になって楽しく踊りました。西日本区は、平和を願って、理事のお気に入りの「イマジン」を会場のみなさんと合唱しました。その後、第23回西日本区大会のアピールもありました。東日本区は、「花は咲く」の合唱。この大会をまとめるような歌でした。どの区も、与えられた時間の中で、メンバーの心を一つにしたまとまったカルチャー発表でした。そしてなんと、プログラムの終了は9時ちょうど。正にちょうど。日本人らしさ？運営に携わった人々の苦勞の成果でした。

